



レクリエーション 基地・天草

石 嶋 和 夫

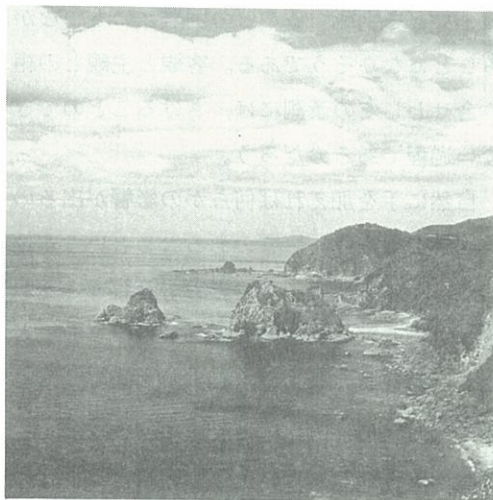
前熊本県公害部公害規制課長
現(社)熊本県薬剤師会
医薬品検査センター所長

1. 天草島の概況

県の南西部に位置する天草諸島は、まわりを海に囲まれ、一部は雲仙天草国立公園に属する。紺碧の海と緑の島々、深く入り組んだ入江、突出した岬が織りなす景観とキリシタン史跡が数多く、素朴な島民性と新鮮で豊富な魚介類が旅情を慰めてくれる。

島の総面積881.39km² (対県比11.90%)、人口173,000人余(対県比9.7%)、人口密度1km²当たり196.45人で県全体に比べればかなり低い。

天草下島(570.29km²)、上島(219.62km²)、大矢野島(30.15km²)のほか、御所浦島、戸馳島、維和島(千束蔵々島)、樋島、永浦島、樋合島、湯島、野釜島など約120の島々からなっている。宇土半島と上島は天草五橋で、上島と下島の間の本渡瀬戸は、天草瀬戸大橋で陸続きになっている。島の暮らしを支える橋の役目は大きく、このほか野釜大橋、西大維橋、東大維橋、樋島大橋、中瀬戸橋、通詞大橋、通天橋と13もの橋がその美しさを競い、さながら橋のコンペともいえる。



2. 景 観

天草五橋：昭和41年に天草五橋が開通し、宇土半島突端の三角町から大矢野町を通り、上島の松島町にいたる17.4kmはパールラインの愛称で親しまれ、天草の産業と観光の起爆剤となった。五号橋一帯は天草松島があり、仙台の松島、長崎の九十九島とともに、日本の三大松島の一つにかぞえられ、千歳山公園からの五橋、天草松島の眺めは格別である。

自然遊歩道：熊本県内には、九州自然歩道が12モデルコース523kmが整備されている。天草にも観海アルプスコース25.2kmが松島町高舞登山～倉岳町に、天草キリシタンコース9kmが本渡市亀川～長崎県茂木根の間に整備され、藍色の海と緑の島々の調和、入江の真珠、ブリ、鯛などの養殖場が作る幾何学模様が人々の目を楽しませ、キリシタンの歴史が夢とロマンをかきたててくれる。

天草西海岸：牛深を舞台にくり広げられた連続テレビ小説「藍より青く」のタイトルにそのままの紺碧の海と、大ヶ瀬、小ヶ瀬、鬼海ヶ浦、妙見浦など入江や岬、大小高低の岩礁など変化に富んだ男性的な景観は頼山陽が「泊天草灘」の名吟としてあますところなく詠じている。また、天草灘に没する落日が美しい。

海中公園：昭和45年に制度化されると同時に、牛深市、苓北町、天草町に誕生した。この一帯は対馬暖流の影響を受けるため、暖海性生物が豊富でありまた地形的にも岩礁や海食崖がつくられ、リアス式海岸を構成している。透き通った海の底には色とり

どりのサンゴの林や亜熱帯の美しい魚が泳いでいて、グラスボードで眺める海の底は美しい別世界である。

特に、牛深海中公園はリアス式海岸の静かなたたずまいの中に、トサカ類、サンゴ類、海シダ等の色鮮やかな海草類の宝庫である。

3. 人文資源

天草・島原の乱：寛永14～15年にわたる天草・島原の乱は歴史的にも有名である。打ち続く凶作、重税、キリシタン弾圧を契機として島原半島一帯に民衆が蜂起し、これに呼応して、天草でも小西行長の遺臣益田甚兵衛の子「天草四郎時貞」が統領に推挙されて、本渡での決戦・勝利、富岡城、島原、原城の攻撃に参加している。

本渡市の本戸城社につくられた殉教公園内には、天草四郎陣中旗を蔵する天草キリシタン館、殉教戦千人塚、キリシタン墓地などがあり、また、一揆軍と幕府鎮圧軍の血で染めた本渡の町山口川には、天保五年に建造された石造の祇園橋がある、

また、富岡には島原の乱の後、天草の初代代官の手によって富岡吉利支丹供養碑が建てられている。

天草の寺

明德寺：本渡市の殉教公園につらなる丘陵にある。天草・島原の乱後、幕府はキリシタン信者の信仰を断ち、仏教に転向させるために島内各地に建てられた寺院の一つである。山門には「祖門普師行清規流通仏海正法」「将家直正革幣改芟除邪蘇邪宗」と記された扁額が掲げられている。

天草四ヶ本寺：志岐の周照寺、本渡の東



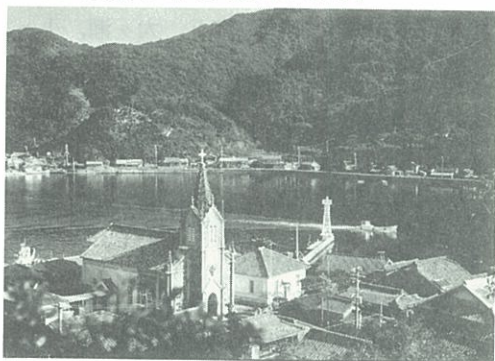
御船ののりて再び爰に旅寝せしかば、たのまれぬ世をば経れども、ちぎりあれば再びこゝに月をみるかな 勝義邦」と書いている。

天主堂：天草西海岸にはロマネスク建築の大江天主堂，海に面して建てられたゴシック建築の崎津天主堂がある。

向寺，栖本の円性寺，一町田の崇円寺も乱後建立され，天草の四ヶ本寺と称せられる。

このほか，南蛮寺の跡地にある正覚寺（有明町），細川家の紋瓦が一部に使われている芳証寺（五和町）などがある。

鎮道寺：西海岸北部の富岡は，砂洲，砂嘴によって富岡城祉を結んでいる。この鎮道寺には，安政4年10月，長崎海軍伝習所で訓練中の勝麟太郎（海舟）が来航宿泊し，本堂の柱に「日本海軍指揮官勝麟太郎」と記し，翌年3月再訪し，別の柱に「蒸気の



頼山陽詩碑：文政六年西遊途中富岡に儒者渋江涪灘を訪れ，そのとき頼山陽が天草灘の展望を詠じた雲邪山邪呉邪越……で始まる「泊天草灘」は名吟として親しまれて

いる。

林芙美子文学碑：小説「天草灘」の舞台となった富岡に泊り、「旅に寝てのびのびと見る枕かな」の句を残している。

五足の靴文学遊歩道：明治40年、若き日の与謝野鉄幹、北原白秋、木下杢太郎、平野万里、吉井勇の5人が大江天主堂のガニエル神父を訪れるため天草西海岸を旅し、紀行文「五足の靴」を交互に書いている。後年、与謝野鉄幹は晶子夫人とともに再びこの地を訪れているが、「天草の西高浜の白き磯 江南省より秋風ぞ吹く（晶子）」の句が読まれている。

4. 水産とリゾート基地づくり

巨大開発や国の公共投資をあてにする時代は終り、活力とうるおいのある地域づくりをめざして、全国各地にさまざまな動きが出てきている。地域づくりの「新しい波」とも「新・地方の時代」ともいわれているが、人情とロマンを秘める夢の島・天草でも、2市13町でつくる広域市町村圏で、日本一づくり基本構想として、「キリシタンの島と海洋基地の里づくり」の策定に取り組んでいる。

「熊本・明日へのシナリオ（県土デザイン編）・熊本県」では、天草の将来の発展方向として、「水産業を基幹として、他の産業の振興を促進するとともに、大型の宿泊施設や海洋レジャー施設などを核として、広域的海洋リゾート基地としての発展をめざす。」としている。

主な基盤整備の一つ「広域的海洋リゾート基地づくり」については、

(1) 本渡市と五和町を含む天草下島北部地

域を、マリーナ、ゴルフ場などのスポーツ施設、大規模公園、大型宿泊施設など複合的機能を備えた天草観光の核となる地域として開発整備を行うとともに、既存の観光拠点基盤の整備を進め、天草地域が一体となった広域的海洋リゾート基地の建設をめざす。

(2) 富岡地域については、まち並みの活用や富岡城社の整備をはじめ、スポーツやフィッシングなどの施設を整備し、歴史的、文化的環境と一体となった整備を図る。

(3) 天草西海岸地域については、キリシタン文化遺産や壮大な自然景観を生かし、キリシタン村について検討するとともに、天草白磁などを生かした歴史、工芸体験基地として整備を図る。

(4) 牛深及び下島東岸地域については、海洋資源を生かして、フィッシング、マリーナ、ダイビングなどの施設の整備を図る。

(5) 大矢野島・松島地域については、天草の玄関としてのターミナル機能を高め、五橋や数々の島などの景観を生かし、人工海浜やキャンプ場などの整備を図る。

また、天草上島北岸地域については、美しい海浜や老岳などを活用し、海洋体験及び憩いの場などとして整備を図る。

(6) 天草上島南岸地域については、倉岳や竜ヶ岳などを憩いの場として整備するほか、穏かな内海を生かし、海洋体験、交流、スポーツ施設などの整備を図る、としている。

5. 結 び

天草地域の観光レクリエーションの現況は、日帰り客が大多数を占め、宿泊型が2

割に満たないこと、1シーズン型であること、天草五橋どまりで下島への入りこみが少ないことなどが指摘されている。しかし、資源的にはその種類が多岐にわたり、量的にも豊富であること。天草下島の過疎化、高齢化、一次産業、低開発などの地域の制約条件に対して、「過疎化→小さいながらも地域に固有の自然資源、人文資源、歴史的資源が多く内在していること」、「高齢化→老人の穏健性、保守性、簡素性は（和）の生活文化への回帰に先進的に対応する。」、「一次産業→精神的領域、伝承的領域が豊かで、人間関係、社会システムがソフトである」、「低開発→都市社会に住む人間の（非日常願望）（原始願望）に呼応する感性空間である。」など、克服課題としてではなく逆手にとって利用していく姿勢が必要であるといわれている。

都市の人が地方に繰り出すのは、なによりも都会の生活で失われた自然とのふれあいを楽しみたいためである。戦後の急激な経済成長期を通じて、緑や水辺、静けさなどの快適な環境を構成する諸要素が急速に失われ、人口と産業の都市への集中は、大気や水質汚染などの公害を引きおこし、環境の快適性の低下となって現われた。しかし経済成長の伸びとともに、国民の所得水準の高まり、余暇の増加など、生活全般にわたって著しく改善された社会・生活環境のなかで、21世紀には日本でも休日が欧米なみになるといわれている。今後の大型バカンス時代に備えて、長期滞在型の大規模な保養基地を民間活力を利用しながら計画的に開発しようと、国の各省庁においてリゾート構想の策定に向けて取り組みが進

められているが、天草下島について複合リゾートカントリー整備計画策定事業の指定要望がなされている。

快適な環境の整備について、環境庁は、

- (1) 緑や水を中心にした快適環境施設の整備
- (2) 良好な自然環境の保全
- (3) 快適な都市・空間の創造
- (4) 環境に配慮した住民の生活・行動ルールの確立
- (5) 環境の質を高める歴史的価値物の保存・活用

をあげているが、レクリエーション基地としての天草はすでに都市の人々の自然指向を満足させる地域条件を備えている。さらに活性化に向けては、より快適な環境の創造に向けての検討が進められ、点としての景観、歴史的価値物、天草の味覚を線として、面として結びつけ、さらに将来に向けて、素朴で温かな人情、汚染のない海、紺碧の海に浮かぶ緑の島々など、自然環境等の保全をはかりながら、歴史と味が一体となったレクリエーション基地へと進んでゆくことが期待される。

参考資料

1. 天草の概況・熊本県天草事務所
2. 天草観光レクリエーション基地中心地区整備構想・熊本県
3. くまもとの旅・季刊No.51・熊本県観光振興課
4. 熊本・明日へのシナリオ（県土デザイン編）・熊本県
5. くまもと修学旅行のしおり・熊本県・熊本県観光連盟